

空間自己回帰モデル の特性について

早稲田大学 力丸佑紀（発表者）
（株）データサイエンスコンソーシアム 柴田里程

空間自己回帰(SAR)モデル

空間計量経済学で用いられるモデル

- 2次元空間上の n 個の地域 $\mathbf{s}_i (i = 1, 2, \dots, n)$
- 観測値 $Y(\mathbf{s}_i)$ / 観測値ベクトル \mathbf{Y}_n

$$\mathbf{Y}_n = \lambda \mathbf{W}_n \mathbf{Y}_n + \mathbf{X}_n \boldsymbol{\beta} + \boldsymbol{\varepsilon}_n$$

- $\mathbf{X}_n \boldsymbol{\beta}$ は回帰項
- $\boldsymbol{\varepsilon}_n$ は誤差ベクトルで $\boldsymbol{\varepsilon}_n \sim N(\mathbf{0}, \sigma^2 \mathbf{I})$

Lee(2004)

- 最尤法によるパラメータ推定
- 8つの条件が必要
 - ✓ ε_n は $N(\mathbf{0}, \sigma^2 I)$ にしたがう
 - ✓ W_n の (i, j) 成分 $w_{n,ij}$ は一様に $O(1/h_n)$
 - ✓ $\liminf_{n \rightarrow \infty} h_n > 0$ かつ $\lim_{n \rightarrow \infty} h_n/n = 0$
 - ✓ $S_n = I - \lambda W_n$ は正則行列
 - ✓ W_n と S_n^{-1} は行和と列和に関して一様に有界
 - ✓ X_n の任意の成分は n に関して一様に有界であり, $\lim_{n \rightarrow \infty} X_n^T X_n/n$ が存在して正則行列
 - ✓ Λ を R のコンパクト集合, λ_0 を Λ の内点とする. Λ 上で $S_n^{-1}(\lambda)$ は λ および n に関して一様に行和および列和が有界
 - ✓ $\lim_{n \rightarrow \infty} (X_n, G_n X_n \beta_0)^T (X_n, G_n X_n \beta_0)/n$ が存在して, 正則行列

どんな条件か？

- 以下の2つの場合について確かめる

1. W_n が隣接行列

- s_i と s_j が隣り合っていれば $w_{n,ij} = 1$, それ以外は 0

2. $Y(s_i)$ が空間オルンシュタイン-ウーレンベック過程の場合

- $dY_t = -\theta_1 X_t dt_1 - \theta_2 X_t dt_2 + \sigma dB_t,$
 $t_1, t_2 > 0, \theta_1 + \theta_2 > 0$
- B_t は Brownian sheet

1. W_n が隣接行列

- 地域 s_i は格子点上に並んでいるとする
 - $n_1 \times n_2 = n$ の観測データ
 - Y_n は座標が辞書式になるように並べる
- $X_n\boldsymbol{\beta} = 0$ の場合を考える

$$Y_n = \lambda W_n Y_n + \boldsymbol{\varepsilon}_n$$

- $W_n = \begin{pmatrix} A & I & & \\ I & \ddots & \ddots & \\ & \ddots & \ddots & I \\ & & & I & A \end{pmatrix}, \quad A = \begin{pmatrix} 0 & 1 & & \\ 1 & \ddots & \ddots & \\ & \ddots & \ddots & 1 \\ & & & 1 & 0 \end{pmatrix}$

ブロック行列

確認すべき条件

1. W_n の (i, j) 成分 $w_{n,ij}$ は一様に $O(1/h_n)$
2. $\liminf_{n \rightarrow \infty} h_n > 0$ かつ $\lim_{n \rightarrow \infty} h_n/n = 0$
3. $S_n = I - \lambda W_n$ は正則行列
4. W_n と S_n^{-1} は行和と列和に関して一様に有界
5. Λ を R のコンパクト集合, λ_0 を Λ の内点とする. Λ 上で $S_n^{-1}(\lambda)$ は λ および n に関して一様に行和および列和が有界

条件 1, 2

1. W_n の (i, j) 成分 $w_{n,ij}$ は一様に $O(1/h_n)$
2. $\liminf_{n \rightarrow \infty} h_n > 0$ かつ $\lim_{n \rightarrow \infty} h_n/n = 0$

- W_n の (i, j) 成分 $w_{n,ij}$ は 0 または 1
- h_n を定数にとれば条件 1, 2 は成立

条件 3

3. $S_n = I - \lambda W_n$ は正則行列

■ $|S_n| = |I - \lambda W_n| \neq 0$

⇔ $1/\lambda$ は W_n の固有値ではない

■ $\xi_{j_1, j_2}(W_n) = 2 \left\{ \cos \left(\frac{j_1 \pi}{n_1 + 1} \right) + \cos \left(\frac{j_2 \pi}{n_2 + 1} \right) \right\},$
 $j_1 = 1, 2, \dots, n_1, \quad j_2 = 1, 2, \dots, n_2$

■ $n \rightarrow \infty$ のとき $\xi_{j_1, j_2}(W_n)$ は $(-4, 4)$ を満遍なく埋め尽くす

■ よって, S_n の正則条件は $|\lambda| \leq 1/4$

条件 4, 5

4. W_n と S_n^{-1} は行和と列和に関して一様に有界
5. Λ を R のコンパクト集合, λ_0 を Λ の内点とする. Λ 上で $S_n^{-1}(\lambda)$ は λ および n に関して一様に行和および列和が有界

- 任意の n, i, j に対して, W_n の j 列目の行和は

$$\sum_{i=1}^n |w_{n,ij}| = 2 \text{ or } 3 \text{ or } 4$$

- W_n の列和は一様に有界
- 列和についても同じ

条件 4, 5

4. W_n と S_n^{-1} は行和と列和に関して一様に有界
5. Λ を R のコンパクト集合, λ_0 を Λ の内点とする. Λ 上で $S_n^{-1}(\lambda)$ は λ および n に関して一様に行和および列和が有界

■ S_n^{-1} を固有値分解

$$S_n^{-1} = UD^{-1}U^T$$

- U は S_n の固有ベクトルを並べた行列
- D は S_n の固有値を並べた対角行列

■ j 列目の要素の絶対値の和は

$$\begin{aligned} \mathbf{v}^T S_n^{-1} \mathbf{e}_j &= \mathbf{v}^T U D U^T \mathbf{e}_j = \sum_{\ell} d_{\ell}^{-1} \mathbf{v}^T \mathbf{u}_{\ell} u_{j\ell} \\ &\leq \max |d_{\ell}^{-1}| \sum_{\ell} u_{j\ell}^2 = \max |d_{\ell}^{-1}| \end{aligned}$$

条件 4, 5

■ $S_n = I - \lambda W_n$ より

$$d_{j_1, j_2}(S_n) = 1 - 2\lambda \left\{ \cos\left(\frac{j_1\pi}{n_1 + 1}\right) + \cos\left(\frac{j_2\pi}{n_2 + 1}\right) \right\}$$

■ $|\lambda| < 1/4$ のとき, S_n^{-1} の行和が一様に有界

■ 条件 3 を満たす条件は $|\lambda| \leq 1/4$ だった

■ 列和に関しても同じ

空間自己回帰(SAR)モデル

- 空間計量経済学で用いられるSARモデル

$$Y_n = \lambda W_n Y_n + \varepsilon_n$$

- W_n は隣接行列
- Lee(2004)の最尤法によるパラメータ推定に必要な条件は

$$|\lambda| < 1/4$$

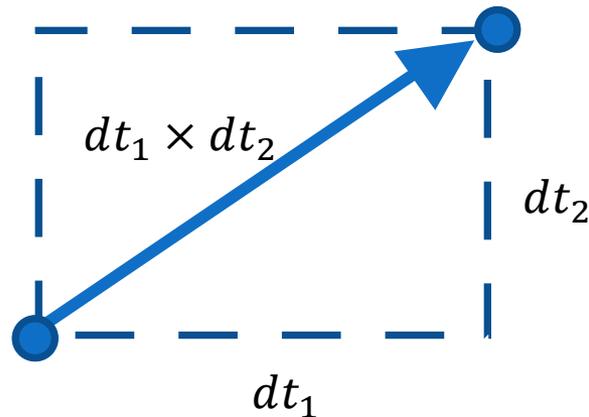
- これは弱定常性の条件と同じ条件

$Y(\mathbf{s}_i)$ が空間O-U過程

- 地域 \mathbf{s}_i は格子点上に並んでいるとする
 - $n_1 \times n_2 = n$ の観測データ
- $Y(\mathbf{s}_i)$ が空間オルンシュタイン-ウーレンベック過程の場合
 - $dY_t = -\theta_1 Y_t dt_1 - \theta_2 Y_t dt_2 + \sigma dB_t,$
 $t_1, t_2 > 0, \theta_1 + \theta_2 > 0$
 - B_t は Brownian sheet

Brownian sheet

- John Walsh(1975)
- a finitely additive set function W defined on the Borel subsets of \mathbf{R}_+^2 such that
 - $W(A)$ is a $N(0, |A|)$ random variable
 - if $A \cap B = \emptyset$, then $W(A)$ and $W(B)$ are independent



SARモデルへの書き換え

- $dY_t = -\theta_1 Y_t dt_1 - \theta_2 Y_t dt_2 + \sigma dB_t$ の解は

$$Y_t = \sigma B \left(\frac{e^{2\theta_1 t_1}}{2\theta_1}, \frac{e^{2\theta_2 t_2}}{2\theta_2} \right) e^{-\theta^T t}$$

- これを用いると自己回帰表現が可能

$$Y(\mathbf{t}) = e^{-\theta^T \mathbf{1}} Y(\mathbf{t} + \mathbf{1}) + \varepsilon(\mathbf{t})$$

微分方程式の解

- $z_t = e^{\theta^T t} y_t$ とおくと、伊藤の公式より、

$$Y_t = e^{-\theta^T t} Y_0 + \sigma \int_0^t e^{-\theta^T (t-s)} dB_s \quad (1)$$

- また、 $e^{\theta^T t} dB_t$ は $dB \left(\frac{e^{2\theta_1 t_1}}{2\theta_1}, \frac{e^{2\theta_2 t_2}}{2\theta_2} \right)$ と同等 (2)

- どちらも独立増分であることは確か
- 分散はどちらも

$$e^{2\theta^T t} dt_1 dt_2$$

- (1)(2) を合わせると前述の解が得られる

SAR表現の導出

- $Y(t) - e^{-\theta^T \mathbf{1}} Y(t-1)$

$$= \sigma e^{-\theta^T t} \left\{ B \left(\frac{e^{2\theta_1 t_1}}{2\theta_1}, \frac{e^{2\theta_2 t_2}}{2\theta_2} \right) - B \left(\frac{e^{2\theta_1(t_1-1)}}{2\theta_1}, \frac{e^{2\theta_2(t_2-1)}}{2\theta_2} \right) \right\}$$

- $Var \left(Y(t) - e^{-\theta^T \mathbf{1}} Y(t-1) \right)$

$$= \sigma^2 e^{-2\theta^T t} \left(\frac{e^{2\theta_1 t_1} (1 - e^{-2\theta_1})}{2\theta_1} \cdot \frac{e^{2\theta_2 t_2} (1 - e^{-2\theta_2})}{2\theta_2} \right)$$

$$= \sigma^2 \cdot \frac{1 - e^{-2\theta_1}}{2\theta_1} \cdot \frac{1 - e^{-2\theta_2}}{2\theta_2}$$

- t_1, t_2 によらない

定常性

- Brownian sheet について

$$\text{Cov}(B(\mathbf{s}), B(\mathbf{t})) = \min(s_1, t_1) \cdot \min(s_2, t_2)$$

と定義すると, $Y(\mathbf{t})$ の定常性が示せる

W_n のかたち

- 地域 s_i は格子点上に並んでいるとする
 - $n_1 \times n_2 = n$ の観測データ
- $X_n\boldsymbol{\beta} = 0, \lambda = e^{-\boldsymbol{\theta}^T \mathbf{1}}$ の場合のSARモデル

$$Y_n = e^{-\boldsymbol{\theta}^T \mathbf{1}} W_n Y_n + \boldsymbol{\varepsilon}_n$$

- $W_n = \begin{pmatrix} 0 & B & & \\ & \ddots & \ddots & \\ & & \ddots & B \\ & & & 0 \end{pmatrix}, \quad B = \begin{pmatrix} 0 & 1 & & \\ & \ddots & \ddots & \\ & & \ddots & 1 \\ & & & 0 \end{pmatrix}$

確認すべき条件

1. W_n の (i, j) 成分 $w_{n,ij}$ は一様に $O(1/h_n)$
2. $\liminf_{n \rightarrow \infty} h_n > 0$ かつ $\lim_{n \rightarrow \infty} h_n/n = 0$
3. $S_n = I - \lambda W_n$ は正則行列
4. W_n と S_n^{-1} は行和と列和に関して一様に有界
5. Λ を R のコンパクト集合, λ_0 を Λ の内点とする. Λ 上で $S_n^{-1}(\lambda)$ は λ および n に関して一様に行和および列和が有界

条件の確認

- 条件 1, 2 は h_n を定数におけばよい
- S_n は対角成分がすべて 1 の上三角行列なので常に $|S_n| = 1$ で正則 (条件 3)
- W_n の行和と列和は一樣に有界 (条件4)
- $S_n^{-1} = I + e^{-\theta^T \mathbf{1}} W_n$ なので, S_n^{-1} の行和または列和は 1 または $1 + e^{-\theta^T \mathbf{1}}$ なので一樣に有界 (条件 4, 5)
- $Y(\mathbf{t})$ が空間 O-U 過程の場合, Lee(2004) の条件は常に満たされる

Leeの条件は何を意味するか？

- $X_n\boldsymbol{\beta} = 0$ の場合には，定常性を仮定していることと同じ？？？
 - 特に S_n に関する条件…
 - 今回は W_n に関する条件はきいていない